

# 南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 14 週 2026 年 3 月 30 日 ~ 4 月 5 日

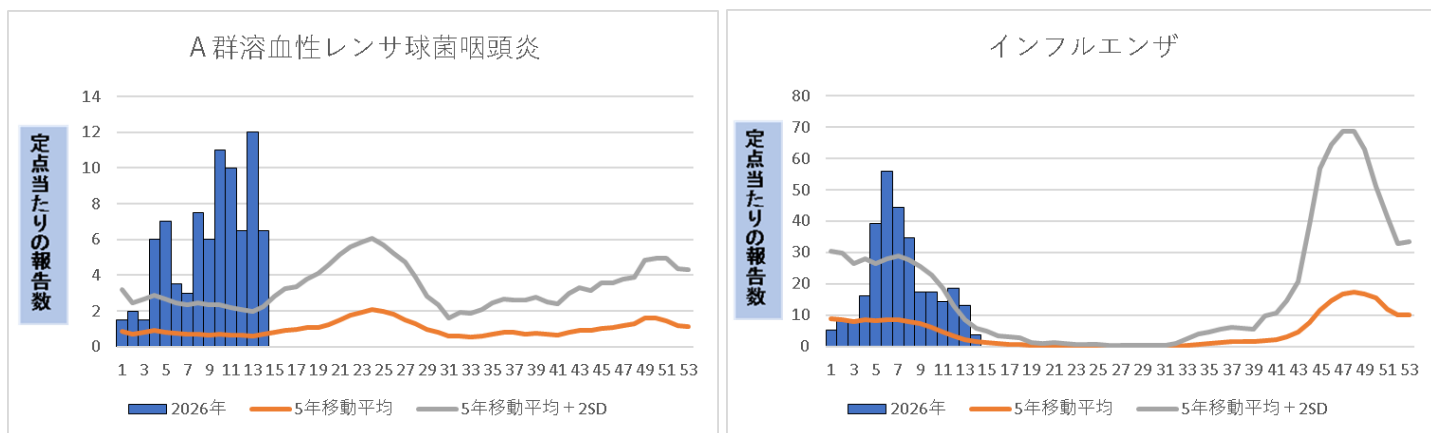
## 今週のコメント

南丹保健所管内では、**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**が**警報レベル**継続中です。  
また、**水痘**が**警報レベル**開始となりました。  
南丹保健所管内の、**インフルエンザ**は**警報レベル**が**解除**されました。

## 2026 年第 14 週の報告です。

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点あたり報告数は、南丹 6.5(前週 12.00)、京都府 3.14(前週 4.16)となっています。
- インフルエンザの定点当たりの報告数は南丹 3.75(前週 13.25)、京都府 2.86(前週 7.00)となっています。
- 感染性胃腸炎の定点あたり報告数は、南丹 3.50(前週 8.00)、京都府 4.76(前週 4.32)となっています。
- 水痘の定点あたり報告数は、南丹 2.00(前週 0.50)、京都府 0.92(前週 0.32)となっています。

## 今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



※横軸は週数 縦軸は定点あたりの報告数を示しています

- 『5年移動平均』は、過去5年間の平均値の変化を表しています。
- 『5年移動平均+2SD』は、過去5年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

## 南丹保健所管内で、水痘が警報レベル開始となりました！

### 【水痘とは】

水痘(すいとう)とは、一般的に「みずぼうそう」と言われています。水痘帯状疱疹ウイルスによって引き起こされる感染症です。空気感染、飛まつ感染、接触感染により広がり、その潜伏期間は感染から2週間程度(10日~21日)と言われています。9歳以下での発症が90%以上を占め、小児における合併症は、皮膚の二次性細菌感染、脱水、肺炎、髄膜炎、脳炎などがあります。成人での水痘も稀にみられますが、成人に水痘が発症した場合、水痘そのものが重症化するリスクが高いと言われています。

### 【症状】

発しんが出る前から発熱がみられ、赤い発しんが水ぶくれになり、やがてかさぶたとなって治ります。

### 【予防方法について】

水痘にはワクチンで予防できます。1回の接種で重症化をほぼ100%予防でき、2回接種により発症そのものを予防できると考えられています。また、家庭内ではうつりやすいため、水疱(水ぶくれ)に触れた後の確実な手洗いやタオルの共用を避けるなどの日常の感染対策も大切です。

水痘について、詳しくは[こちら\(厚生労働省\)](#)をご覧ください。

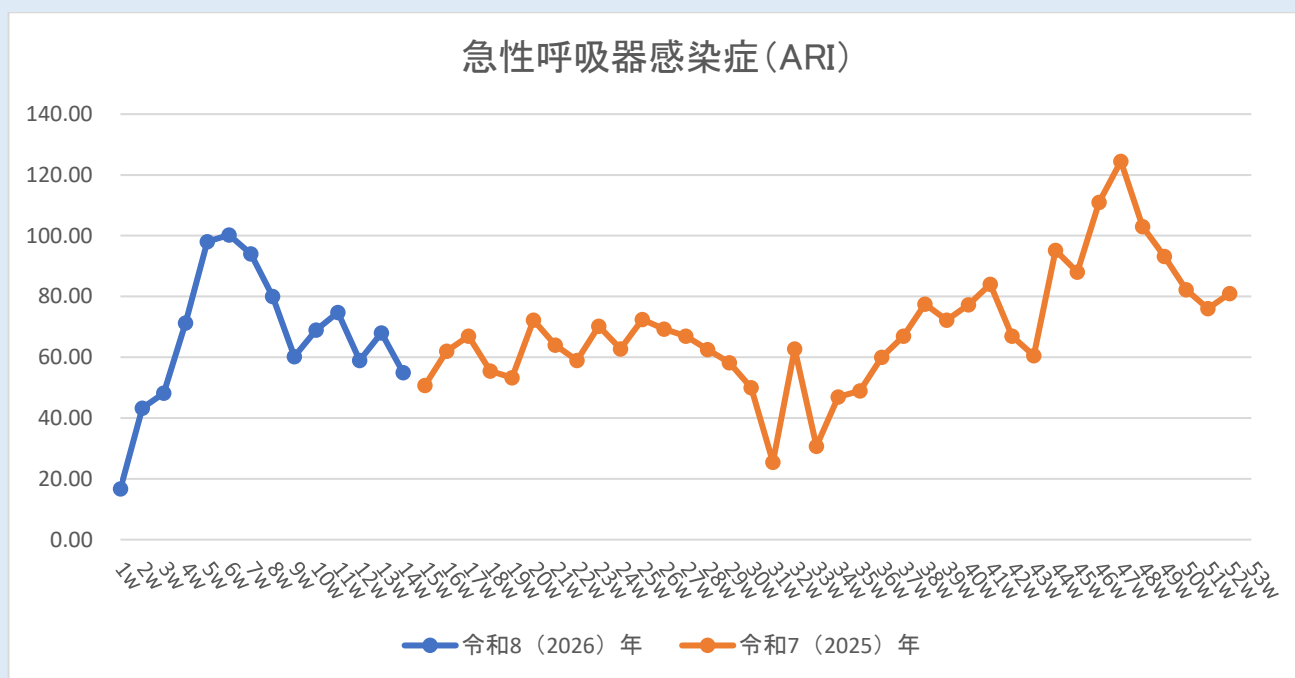
各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R8.14w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	3.75	↘	13.25
新型コロナウイルス感染症				0.00	↘	0.50
RSウイルス感染症				1.00	↗	0.00
咽頭結膜熱	3	1		0.50	↗	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		6.50	↘	12.00
感染性胃腸炎	20	12		3.50	↘	8.00
水痘	2	1	1	2.00	↗	0.50
手足口病	5	2		0.00	→	0.00
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				0.00	→	0.00
ヘルパンギーナ	6	2		0.00	→	0.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第14週報告数は220件(定点当たりの報告数55.00)でした。[京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期:(原則)毎週木曜日 14時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)